

## イエス様に出会った喜び

ヨハネ1章19～42節  
2021年01月03日  
松田 基子 師

神様の憐れみと守りにより、新しい年、2021年を迎えることが出来て、心から感謝致します。昨年、世界中を巻き込んだ新型コロナウイルス感染は、年が明けても勢いは治まらず、2021年も対応に追われる年となりそうです。感染重症の方々、医療に従事されている方々、困窮されている方々の上に、神様の更なる助けをお祈りすると共に、一日も早い終息をお与え下さる様にと、お祈り致します。

世の中がこの様に不安に覆(おお)われて行く中で、私たちキリスト者は、どう生きて行けばよいのでしょうか。キリスト者も現実には、きちんと見据えて行かなければなりません。

「お祈りをしたら、ウイルスに感染しない。」等と言う事はありません。科学に耳を傾け、適切な対応をして行かねばなりません。しかし、一方で感染者数の増大、医療崩壊、経済破綻などの予想から、希望を失ってはなりません。

私たちの信仰の確信は、

『天地万物は神様が造りになり、そこにどのような破壊行為が起こっても、神様が守り続け、修復し続けていて下さる。』

と言う事です。私たちはその**神様の御手に守られて居る**と言う事を、決して忘れてはならず、私たちはどの様な状況に陥ろうとも、神様に信頼し、神様による希望に生き抜いて行かなければなりません。この惨状は誰よりも、**神様が一番、心を痛めておられます**。その神様が、人類に対して一番心配しておられることは、愛を込め、使命を与えて世に送り出した人間全てが、神様に背き、その結果、罪に支配されて、肉体の死によっては無くならない個々の存在が、**永遠の滅び**に向かう事です。

神様は人類の方向が、永遠の滅びに向かい始めたその時から、人類の歴史を、**人類救済の歴史**に定められました。罪ある人間自身に解

決の道はなく、神様は人類の罪を贖うために、罪無く、全人類に優る価値を持っておられる神の御子をこの世に誕生させられました。それがクリスマスの夜、家畜小屋に生まれて下さったイエス様です。

ところが、神様はイエス様に、人々が直ぐにイエス様は神の子だと分かる様な、後光が差すなどという徴をお与えにはなりません。神様は御自身に背いた人類に、信仰を求められました。外側の徴で信じようするのは、信仰ではありません。神様は御子の誕生のためにイスラエルの民をお選びになりましたが、イエス様時代の彼らの信仰は神様の前に、心遜って神様の御心を求めて聴き従うと言うものではなくて、自分達の考え、自分達の判断を正しいとして押しつける信仰でした。

それは、立派な神殿で、盛大に宗教行事を執り行い、律法を宗教規則として、民衆に浸透させることでした。一方、そのような表面的な盛大さの偽善を嫌って、神様の御心を真剣に求め、神様の御声を聴くために荒れ野に退いて修道の生活を送る人々がいました。

その人々より、更に自分に厳しく、ただ、神様の御心のみに従い、救い主メシア出現を待って、先駆者となったのは、バプテスマのヨハネでした。マルコ福音書を見ますと、彼は、ラクダの毛衣を着、腰に皮の帯を締め、イナゴと野蜜を食べて、一心に神様の御心を求め、ヨルダン川で罪の赦しを得させるために、悔い改めの洗礼を宣べ伝えていました。

マルコの1章5節には、

「ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。」

とあります。ところがこの事に対して、悶着(もんちゃく)を付ける人たちがいました。それはエルサレム神殿当局者とユダヤ教徒達でした。今朝のヨハネ福音書1章19節を見ますと、エルサレムのユダヤ人たちが、祭司やレビ人たちをヨハネの許に遣わして、

「あなたはどなたですか。」

と質問させています。それはつまり、

『身を証して下さい。』

と言っているのです。悔い改めを迫って、洗礼を受けることが出来るのは、次の3人です。

彼らは洗礼者ヨハネに、あなたは

1) 救い主メシアか。

2) それとも、旧約聖書の最後の

マラキ書3章23節の、

「見よ、わたしは大なる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなた達に遣わす」

という預言者なのか。

「あの火の車に乗って天国に引き上げられたエリヤが、終末には再び現れる」

と言われていました。

3) それとも、申命記18章15節にモーセが

「あなたの神、主はあなたの中から、あなたの同胞の中から、わたしの様な預言者を立てられる。あなたたちは彼に聞き従わねばならない。」

と預言したその預言者なのか。

と問いました。

自分達こそは、正当信仰を守っていると自負していたユダヤ教徒達にとって、洗礼者ヨハネに勝手にさせることは、許し難く、洗礼を受ける資格を明らかにしなさいと迫って来たのです。洗礼者ヨハネは、名前を挙げられた3人とも否定しました。そこで、質問者達は22節に、

「それでは一体誰なのですか。あなたは自分をなんだと言うのですか。」

と質問してきました。

そこで、洗礼者ヨハネは、

イザヤ書40章3節から、

「わたしは荒れ野で叫ぶ声である。

『主の道をまっすぐにせよ。』と。」

と答えたのでした。洗礼者ヨハネは、人間に対しては、王であろうと全く恐れず、強く正しい心の持ち主でした。しかし、神様の前では非常にへりくだり、聖さと完全さを求めた人でした。彼は唯ひたすら、神様の御声を聴く人であり、神の言葉を正しく伝え、声となって消えて行くべき存在であるところを自覚していた人です。

そのような霊性を持ち合わせない、律法の字

面に生きたファリサイ派である質問者達は、人間的な権威を求めて、

「あなたは、メシアでも、エリヤでも、またあの預言者でもないのに何故、洗礼を受けるのですか。」

とまた尋ねました。すると、洗礼者ヨハネは、

「私は水で洗礼を受けるが、あなた方の中には、あなた方の知らない方がおられる。

その人はわたしのあとから来られる方で、わたしはその履物の紐を解く資格もない。」

と答えました。

ヨハネは神様に召され、神様の御業に仕えていただけでした。彼は民衆の心に罪を自覚させ、悔い改めの洗礼を受けさせると共に、その罪を解決出来る真の救い主が、必ず自分の前に現れる事を信じて、待っていたのです。その方が遂に洗礼者ヨハネの前に現れました。

彼はイエス様に洗礼を受けました。でも、そこで何が起こったかは、すぐに民衆に告げていません。別な日にヨハネはイエス様が自分の方に来られるのを見て、29節に、

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

と力強く証言しました。

「神の小羊」

この言葉は、イスラエルの人々には、誰にでも分かる言葉でした。何よりも自分達の先祖は、出エジプトの際、小羊を屠ってその血を入口に塗って、死の使いを過ぎ越させました。また、神殿では、いつも、罪の贖いのために小羊が屠られていました。

イザヤ書53章には、同胞の罪を負って身代わりとなる存在が、屠り場に引かれて行く羊に例えられています。ですから、世の罪を取り除く神の小羊と言う意味は、罪の贖いを意味していました。ヨハネは、この方が正しくそのお方であると1章32節から証言しています。

「わたしは“霊”が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを見た。わたしはこの方を知らなかった。しかし水で洗礼を受けるためにわたしをお遣わしになった方が、『“霊”が降って、ある人にとどまるのを見た。その人が、聖霊によって洗礼を

授ける人である』

とわたしに言われた。わたしはそれを見た。だから、この方こそ、神の子であると証したのである。」

と言っています。

洗礼者ヨハネは、イエス様に出会い、聖霊の証明を頂いて、どんなに嬉しかったことでしょう。彼はこの日のために神様に聞き、従い、人生を賭けて来たのです。洗礼者ヨハネの、その純粋な神様の御心を求め、従う生き方は、多くの真理を求める人々を引き寄せました。多くの弟子が集まりました。しかし、ヨハネは、彼らを自分に引き寄せようとは少しも思って居ませんでした。彼はイエス様に洗礼を受けた時、霊が鳩の様にイエス様の上に降った。その感動に、このお方こそ救い主メシアだと確信して心を燃やされ、弟子たちにその様子を語ったに違いありません。

弟子たちの心にも、イエス様にお会いしたい。と言う切望が生まれました。

そして、35節を見ますと、

「その翌日、また、ヨハネは2人の弟子と一緒にいた。そして歩いたおられるイエス様を見つめて、

『みよ、神の小羊だ。』

と言ったのです。2人の弟子は、イエス様に、ここで始めて会ったのですが、既に洗礼者ヨハネから、その何たるかはもう、十分に聴いていました。ヨハネは神様の真理と御心のみを求めた人でしたから、イエス様によって神様の真理を知ること、弟子たちに勧めたに違いありません。2人は、イエス様に会えた喜びに、神の国の真髄を知りたい。その一心でイエス様の後を追って付いて行きました。

イエス様も2人が付いてくるのに気付かれ、振り返って、

「何を求めているのか。」

詳訳聖書では、

「あなたたちの願いは何なのか。」

とお尋ねになりました。2人は、

「ラビ(先生)どこに泊まっておられるのですか。」

と尋ねました。彼らはイエス様から、時間を懸けてももっとも信仰の真理を知りたかったのです。

イエス様も2人の真剣な様子を受け入れて、

「来てみなさい。そうすれば分かる。」

と、2人に付いて来る事を許されました。

39節に、

「彼らは付いて行って、どこにイエスが泊まっておられるのかを見た。そして、その日はイエスのもとに泊まった。午後4時ごろのことである。」

とあります。2人にとって、その日は生涯忘れる事の出来ない大切な日となりました。4時と言うのは、今日の時間帯に直したものです。

およそ第10刻。日没の約2時間前の事です。二人にとって時間までも覚えるほど重大なことが起こりました。イエス様に出会い、親しく教えを受けたことで、その日がイエス様の弟子となる転換点となったのです。彼らは、イエス様から話を聞きながら、心が熱く燃え、イエス様が、ヨハネが証した救い主メシア、それは

「世の罪を取り除く神の小羊である。」

ことを知らされました。

2人の中の1人は、シモン・ペトロの兄弟アンデレでした。彼は自分が得た喜び、確信を誰かに伝えずにはいられませんでした。

『最も近い、最も愛する者に、この良き知らせを伝えたい。』

との思いでした。

41節には、

「彼は、まず自分の兄弟シモンに会って、」

とありますが、岩波訳では、

「自分の兄弟シモンを見つけて」

とあります。その意味は、

「たまたま出会った。」

と言うのではなくて、探し見つけ出して、

岩波訳では、

「オレたちはメシア、キリストを見つけたぞ。」

と心の底から、喜び溢れて兄に伝えたのでした。シモンはアンデレの言葉に驚いたものの、彼自身が、その事に心を引かれていました。アンデレは兄、シモンに唯、報告をしただけではありませんでした。兄をイエス様に会わせたい気持で、

彼をイエス様の許に引っ張って行きました。シモンはイエス様に会って、引き込まれて行きました。イエス様は、シモンに会われると、彼の長所も短所も見抜かれ、彼を用いて、神の国の業を進めて行くことをお考えになりました。

人はこの様に、イエス様に出会った時に、その使命がはっきりと分かり、その事によって人生を最も輝かせ、意義あるものにする事が出来ます。シモンは漁師です。働き者で漁業に懸けては経験豊かです。それだけに、他の事には全く疎(うと)く、何が出来ると言うのでしょうか。それなのに、イエス様はシモンに、大きな期待を寄せられました。42節には、イエスは彼を見つめて、

「あなたはヨハネの子シモンであるが、ケファ(岩)と呼ぶ事にする。」

と言われました。イエス様はシモンに岩の様な、動かされる事の無い、信仰を与え、彼はやがて、教会の礎となって、イエス様こそ、死を越えた、人間存在の全ての保証者、真の救い主であることを証して行く人物に成長して行くのです。名前はその人の全人格、全存在を現しますが、イエス様はペトロをケファに育てられたように、その人その人を、責任をもって導き、成長させ、その人を、神の国に迎えるに相応しく育てて下さいます。

ところで、人は誰も、イエス様に出会うことで、その人を根本的に縛(しば)っていた罪が分かり、イエス様の十字架による罪の贖いを受けて、罪赦された時に、不安から解消されます。

人生には、色んな不安が襲って来ますが、**人生の最も根本問題は、罪を抱えている不安**です。人はそれを、見抜かれまいと守りを固めています。今日は特に、魂の問題を考える機会を奪う忙しさ、情報の洪水で、人々は真剣に**自分の魂に向き合おうとはしません**。私たちキリスト者も、イエス様の素晴らしさを体験しながらも、そのようなこの世の今の状況、相手の関心、相手の気持ちに、配慮して、表面的なことしか、語れないでいます。しかし、**イエス様こそ真の救い主**なのです。この事は相手にとって、**命に関わること、永遠の命を得る道**であることなので

す。その事を私たちが、『どれくらい真剣に受け止めているか。』と言う事が問われています。

今年は先ず、私たち自身をイエス様に取り扱って頂き、心を燃やして頂いて、誰かに、「**教会にいらっしゃい。**」と声が掛けられるようにして頂きましょう。

お祈りを致します。  
憐れみ深い天の父なる神様  
新し年を有難うございます。

こうして生かされていますのは、唯々あなたの愛と憐れみによるものです。イエス・キリストの十字架の贖いによる、み救いを頂き、永遠の命の保証を頂いていながら、自分の恵みに満足し、なかなかそれを周りに伝えられないで居ます。また、社会情勢や、色々な状況は、それを受け入れようとはしません。

けれどもこの不安な時代にあって、真の平安を与え、永遠の命を与えて下さるのは、真の救い主イエス・キリストだけです。このお方を知っている私たちには責任があります。

主よ、どうぞ私たちの心を、主への愛で満たして下さい、燃やして下さい。そして、どうぞ周りの方々に、この素晴らしい永遠の命の福音を語って行く事が出来ますように、

“教会へいらっしゃい”  
と勧める力を、語り出す力を、  
この年お与え下さい。

お一人おひとりを豊かに祝し、  
用いて下さい。

尊い救い主イエス・キリストの  
お名前によってお祈りを致します。

アーメン。